

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol. 3

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

特集

思春期にデブであるという事

思春期にデブであるという事は、中期にデブであることとは意味が違います。人生で一番美しいはずの季節に太っている。そのことでもたらされるものがあるのです（実体験）。健康面での問題よりも、容姿のコンプレックスが日常生活や交友関係に影響を及ぼします。ただでさえ自意識過剰な時期に、デブを抱えて生きるこの試練。だつたら**痩せればいいじゃない**、というのはお門違い。自分がデブとして生きてきたパーソナリティを失うことになるのです。欠点を美点に変えることは難しい。いや、デブは欠点なのか。デブ賛歌を高らかに謳い上げることもできないまま、デブである自分とどう和解するのか。そもそも**デブが自分らしさ**だと受け入れて良いのか。思春期にデブであるという事は**葛藤の宝庫**であり、ここに児童文学は多くの読み応えのあるドラマを作り上げてきました。そんな太った主人公たちの魅力的な物語を紹介します。



ハスキーなボクのユウウツ

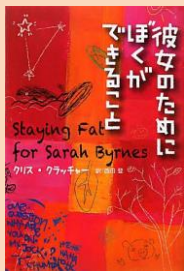
HUSKY.

作者 ジャスティン・セイヤー
 翻訳者 海後礼子
 出版社 岩崎書店
 発行 2019年05月
 ISBN 978-4265860456



QRコードを読み込むとウェブサイトのレビューを参照できます。

太っている少年、デーヴィス。十二歳の彼を悩ませているのは、**自分ほんなんぶうに形容されるのか**ということ。デブというよりはハスキー（がっしり）なのだろうか。高校に入る前には自分のキャラクターが決まってしまうものだというけれど、自分の個性がよく分らない。そんなデーヴィスはかなり変わった子です。趣味はオペラを聴くこと。男子の友だちはおらず、親友は二人の女子。ゲイだからかわれることもあり。女子たちとの仲間に次第に入れないまま、ただの悲壮感溢れる自己卑下ばかりのデーヴィス。自分が思うよりもずっと家族や友だちに愛されているのに、なかなかそこに気づけない。**曖昧な自分自身をそのまま受け入れる**にはまだ時間がかかりそうだけれど、読者には無自覚なデーヴィスの姿が素敵に見えるのです。



彼女のためにぼくができること

Staying fat for Sarah Byrnes.

作者 クリス・クラフチャー
 翻訳者 西田登
 出版社 あかね書房
 発行 2011年02月
 ISBN 978-4251066749



白鯨（モービー）と呼ばれる巨漢の高校生、エリック。水泳に打ちこみ好成绩を収めるようになって、**過食を続けデブ体型を維持しようとする**のには理由がありました。自分の体型に萎縮して引込み思案だった中学生時代に唯一の友だちだったサラ。顔に大きなヤケドの痕がある彼女との連帯感を失いたくないエリックは**デブでいることを心に誓っていた**のです。毒舌家で誰にも負けないタフなスピリットを持っていたサラ。そんな彼女が精神を病んで、心を閉じ誰にも反応しなくなったことにエリックは驚きます。かつて自分を守ってくれたサラのために、エリックは彼女がこなう原因を調べ、闘いを始めます。デブのネガティブ期を抜け出した少年の**「デブの向こう側」**。腐った良識に蹴りを入れる、ポジティブな決意がみなぎる作品です。



恋するぶにちゃん

Dumplin.

作者 ジュリー・マーフィー
 翻訳者 橋本恵
 出版社 小学館
 発行 2017年07月
 ISBN 978-4092905849



ウィルは太っていることを気にしていないし、自己紹介の時には「**おデブ女子**」だと自分から**アピール**する女の子。それにひるむどころか笑みを浮かべてくれた同じアルバイト先の男の子ボウに、ウィルは恋に落ちてしまいました。**これが地獄の始まり**です。スポーツマンで格好いいボウに夢中になる気持ちをウィルが抑えているのは、今まで自分でも気づいていなかったコンプレックスが目覚めてしまったから。見た目の良い彼と自分が並ぶことはできない。地元でミスコンテストを主催しているウィルのママは、太った自分を傷つけないように誘わなかったけれど、迷えるウィルはここでエントリーを決意します。同じ学校の容姿に自信のない女の子たちが集まってきて、**ミスコンテストに革命を起こす進撃**が始まりますが、そこにはデリケートな葛藤もあって、ウィルの心はさらに揺れ動きます。



ビッグTと呼んでくれ

Fat kid rules the world.

作者 K.L.ゴーイング
 翻訳者 浅尾敦則
 出版社 徳間書店
 発行 2007年03月
 ISBN 978-4198623111



自分のあまりの肥満ぶりにイヤ気がさしていた高校生のトロイ。凄いデブである自分はいつも人に笑われていると、肉体的にも精神的にも**身動きがとれない状態に陥って**いました。ダイエットにも失敗し、自殺を考えていたトロイを止めたのは同じ学校の先輩であるカート。地元のライプハウスで活躍する彼は、トロイの個性に注目してパンクロックバンド結成を持ちかけます。イヤイヤながら未経験のドラムを叩くことになったトロイと、天才ギタリストであり、横暴な性格で破壊型のカート。タイプの違いはぶつかり合い火花を散らしていきます。不自然ながら姿勢で危ういバランスをとりながら、**この生き難い世界に立ち向かう二人**。絶望感からスタートするトロイの物語が、最後にはこの世界の愛おしさを感じさせてくれます。実にクールな屈指のYA作品です。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.3 2019年8月1日発行

●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、受賞。



@tommoostretch